



# JETプログラムの 新たな視点

熊本県天草市教育委員会外国語指導助手

**Jason Shon**

**ジェイソン・ション**

学校にとって外国語指導助手（ALT）はプラスなのか？本当に役に立っているのか？私は二つの中学校と一つの小学校で働くJETプログラムのALTとして、この二つの問題の答えを知りたかったのです。そこで、中学校の1～3年生（合計380人）を対象にALTが必要であるかどうかについて調査を行いました。その答えは“Yes!”と、はっきりしていました。

生徒の回答によると、ALTは様々な側面で学校に影響を与えているようです。まず、生徒はALTのおかげで英語をよりよく勉強できると答えています。その上、授業以外の時間においてもALTと国際交流をする機会がある事に価値を感じています。JETプログラムのALTは学校と地域に大きく貢献しています。



ハイヤ!祭りの準備が出来上がった!この後市役所の方々と踊りに

生徒は、ALTの活用は英語を学ぶのに大きな手助けであると感じています。「学校にALTがいることであなたが最もいいと思うことは何ですか?」という質問に対して、多くの生徒が「授業が楽しくなる」、「英語の勉強がとても面白くなる」、「学習しなければいけない単語以外

の単語を覚えてもらうことができる」、「分からない時に優しく詳しく教えてもらうことができる。」との答えでした。ある正直な生徒は「寝る回数が減る」と書いてくれました。それ以外にも、「本当の英語が聞ける」、「話し方や発音がわかりやすい」、「英語で正しいコミュニケーションができる」、「日常生活の中で英語を身につけることができる」、「外国の人としゃべっている時の緊張感が好き」など話すことに重点を置いた意見や、英語に対する興味関心については、「自分から英語で話しかけてみようと思えるようになった」、「英語で話したら楽しくて英語で話したくなる」という答えを書いた生徒もいました。発音と会話の指導または生徒にやる気を起こさせることのいずれにおいても、ALTは授業の質を高め、生徒が英語を勉強するための手助けとなっているようです。

ALTの仕事は英語の授業の枠を越えて、学校生活に積極的に参加することにまで及んでいます。放課後にサッカーやバレーの部活動に参加する他、毎日生徒と一緒に給食を食べたり、授業の間や昼休み、放課後に遊んだり、体育や音楽、美術の授業に参加したりしています。休日には学校の行事や部活動の試合を見に行くこともあります。あらゆる機会を利用し、生徒と一緒に過ごすことに対して、多くの生徒は嬉しく思っているようです。ALTの良い点について、「昼休みに皆と遊んでくれて、とってもいい」、「たくさんの行事、部活、体育に参加している」、「親しみやすく、話しやすい」、「学校が活発になる」な



熊本県下市役所職員親善サッカー大会3年連続優勝！

どの意見が出ました。

授業以外の時間に生徒と接することは国際交流とつながっています。昼休みに生徒と話す時などに、より個人的な面でお互いを知ることができます。そうすると、生徒は私の学校での独特な役割を理解し、ALTが英語の先生であるだけでなく、国際理解をする上での「お手本」や「友達」、「外国人」あるいは「友達のようにしゃべりやすい先生」だと思えるようになります。好きな音楽の種類から日本とハワイの学校の違うところまで、何でも話することができます。生徒が言うように、会話を通して、生徒たちは外国のこと（外国の人、文化、生活、言葉、ゲームなど）について知ることができます。国際交流をさらに促進するために、私はアメリカとハワイの文化行事について情報や写真を提示する掲示板を作成・更新しています。ハワイに住んでいる中学生との文通友達プログラムも企画しました。ALTが学校生活に積極的に参加することは、ALTと子供の間関係を良くします。そのことが、生徒に堅苦しくない自然な雰囲気の中で英語を練習する機会と、国際交流に参加するチャンスを与える事につながります。

もちろん、JETプログラムの影響は学校だけでなく、地域にもあります。私は地域の方々とサッカーやバドミントンをしたり、お祭りや文化行事に参加したり、町が主催するマラソン大会で走ったりしています。学校が休みの時には、World Wide Opportunities on Organic Farms



倉岳えびすマラソンを走る前

(WWOOF) という組織を通して、時々日本の有機農場へ働きに行く事もあります。さらに、「日本とアメリカの学校制度の違いとところ」について地域のロータリークラブの方々への講話にも行きました。私の友達の輪には漁師から医者、音楽家や公務員まで、色々な人々がいます。私は彼らによって国際的な視点を学ぶ事ができ、生徒であるかのように、常に日本の文化や社会、言語について多くを学ぶ事ができています。ここで学んだことをハワイに持ち帰り共有することで、「国際交流」というサイクルはずっと続いていくと思います。



Jason Shon

私はアメリカのハワイ州のホノルル市出身のジェイソン・ション (Jason Shon) です。現在、熊本県の天草市の2年目のALTです。23歳で、2009年に研究専攻日本語副専攻でウィットマン大学アジア (Whitman College) を卒業しました。好きなことはサッカー、ギターとピアノ、ハイキング、魚釣り、読書です。JETの後、大学院で自然や環境についてもっと勉強したいと思っています。



## 特別なニーズと 特別な心

群馬県渋川市立子持中学校外国語指導助手

**Helen Auer**

ヘレン・アワー

多くのJET参加者のように、生徒と過ごす私の時間は大笑いを誘うことや、思いもなかったような文化の違いによる誤解がたくさんありました。私が質問の確認をしようとして“You have?”と聞いたら、クラス全員の生徒が、“new-half”と聞き間違えました。ニューハーフというのは今の日本では、男性が性転換により女性になった人を指す言葉です。これでクラス全員が、イスから転げ落ちるほど大笑いをしました。ありがたいことに、このことを担当教師とその生徒は、見事なユーモアをもって理解してくれましたが、私は恥ずかしさで真っ赤になってしまいました。

「アシスタント」という肩書きは副次的な立場を示しますが、ALT（外国語指導助手）は学校だけに限りません。私の日本人の友人の一人は、日本人について、「ボランティア精神はあるけれど、どう行動を起こしていいのかわからない、いつもわかってい

るわけではない」と言いました。日本には従うべき手順は常にあるものだけれど、何かをしたい気持ちがあれば、誰かが先頭に立って行動をおこせば必ず変化があるはずです。

この考え方は前任のALTが行ったボランティア・プロジェクトを引き継いだことからきています。私の町には、様々な背景や家庭事情を持つ子供たちのための寄宿舎があり、子供たちはそこから学校に通うことができます。複雑な家庭で育った子供や、発達障害のある子供もいます。私のいる学校はこの寄宿舎と協力し合っており、学校の特別支援クラスには、平均して6人ほどの生徒がいます。

数年前のことですが、カナダから来たALTと私の友人の日本人が寄宿舎訪問を計画し、季節を反映する催しを企画して、そこに住む子供たちに国際交流の機会を作りました。たくさんのALTがハロウィーン、クリスマス、夏の水遊びの催しにボランティアとして参加しました。子供たちには、大好きな“外国人の友達”ができました。

私はやがて、寄宿舎から来る生徒のほうが、より一生懸命に習った英語を忘れない努力をするし、英語が特に好きでなくてもクラスではリラックスしていることに気が付きました。彼らには、「たぶんいつか、使うことがあるだろう」というのではなく、実際に英語を使う現実の機会があるのです。若い人に、勉強は自分のためにするのだということと、実際の経験をさせることは全く違うことです。ALTとして5年目の今年、寄宿舎



JTE（日本人英語教師）と私は学校のハロウィーンでテレビの「イッテQ」の出演者の格好をしました





有名な草津温泉 私の家から日帰り旅行ができます。

献血 ささやかながら、群馬のJETが自分のできることで貢献

日本へ来る前に私が知っていた日本語は、基本的な挨拶や数の教え方だけでした。私が話しをするときは、主に英語を使って、それに少し日本語を交えまし

を訪問する私たちALTに対する寄宿舎の生徒の態度が、素晴らしい変化を遂げているのに気付きました。彼らの英語全般に対する態度も同様です。

特別支援クラスで私が大好きだった一人は、注意力の問題を抱えていました。彼の気持ちと関心の中心となるものは常に5方向に散っていました。それでも彼は自分らしさを失わず、いつも素晴らしい笑顔でした。また、どのくらいの時間続くかわからないながらも、集中しようと一生懸命な顔つきだったのを私は覚えています。彼は学期中、寄宿舎に住んでいました。

瞬時に英語を思いつくことは、彼が得意とするところでしたが、他の5人の生徒（全員が異なる発達障害を持つ）をうまく集中させようとしている私に、出し抜けに英語で質問をしたものです。彼と私は「心の感覚」を共有していました。それは私たちの会話を偶然耳にしたどの先生をも混乱させたようでした。話題がお天気、テレビのプログラム、学校の給食にまで及んでいても、私たちの心はいつもつながっていました。彼が卒業するまで、私は、友人や家族に、この生徒は私にとって学校の弟なのだと話していました。

私がもっと日本語を理解していたなら、色々な情報の交換がどれくらい広がったかしらと思わざるを得ません。それでも、私は日本語の能力不足が、私の日本での経験や、周囲の人との文化交流の妨げになるべきでないと思いました。そして、先生方や友人や生徒たち自身が助けてくれたお陰で、私たちは皆で、退屈な会話を、心のつながった活気のあるものにしてきました。そもそも、これがALTが日本にいる本当の意味でしょうか。

た。だけれど、私には、日本語で話しかけられたときに直感が働くような技が発達したようです。先生方の中には、私には「心の感覚」というようなものがあるから、日本語で話をしても、抵抗無く話しやすいのだとおっしゃってくださる方もおられます。皆さんが、とても忍耐強く私に接してくださるので、ご親切へのお返しをしたいと思います。

日本に住むことは本当に素晴らしい体験です。ALTとして働く私が、周囲の方々へどれだけの影響を及ぼしたかは、私が到着した当日や一年後には感じられませんでした。日本で最後の年となる今年、私は新しい目的を見つけました。私の一生の中に、これまで教師という言葉は含まれていませんでした。私は「良い」教師と「平凡な」教師を見て、両方から学ぶこともできました。先生とも友人とも言えない立場であったと思いますが、私は、生徒にとって、先生と友人の両方の心を持った中間的存在であったと思います。私はそれがとてもうれしいです。



Helen Auer

私はテネシー州フランクリン市の出身で、父のジェームス・アワーの元で勉強をする日本人学生や友人と交流を持ちながら育ちました。幼い頃から日本人と付き合い、いつか日本を経験したいと思っていました。私は群馬県渋川市立子持中学校に勤務しており、今年は5年目です。ALTとしての仕事を本当に楽しんでいます。

# A New Perspective on JET

Are Assistant Language Teachers (ALTs) positive attributes to schools? Do they make an impact? As an ALT in the JET Program working at two junior high schools and one elementary school, I wanted to know for sure. So I surveyed all 380 of my junior high school students. The answer was a resounding, "Yes!"

The responses I received also suggest ALTs make an impact in many ways at school. First, students feel we help them learn English better. They also value the time we spend with them outside of the classroom, and the opportunity to participate in international exchange. The JET Program greatly contributes to schools and local communities.

Students feel ALTs help them to learn English. In response to the question, "What do you like most about having an ALT at school?" many students wrote, "Classes are fun," "Learning English becomes interesting," "He teaches us words other than the ones we have to study," and "He kindly helps us when we don't understand." One honest student even wrote, "The number of times I sleep decreases." A large percentage of students focused specifically on different aspects related to speaking,

saying, "We can hear how English is really spoken," "His way of speaking and pronunciation is easy to understand," "We can learn how to communicate correctly in English," "We can use English in our daily lives," and "I like the nervous feeling of speaking to a foreigner." Some students even appear more motivated to learn English. One student wrote, "I think about trying to start conversations [as opposed to always being asked]," and another commented, "It's fun to speak in English so I want to speak in English more." Whether it be through our pronunciation and conversations, the motivational impact we have on students, or the energy we bring to the classroom, ALTs improve classes and help students to learn English.

But the job of an ALT extends beyond the English classroom; we also actively participate in school life. In addition to participating in after school club activities such as soccer and volleyball, I also eat school lunch with students every day; hang out with students between classes, during breaks, and after school; occasionally take part in other classes such as P.E., music, and art; and attend school events and sports games on the weekends. I take every opportunity to spend time

## Special Needs, Special Hearts

Like many JET participants, my time working with students has been full of hilarious moments and unexpected cultural miscommunications. I've asked a student for confirmation to a question 'You have?' and had the entire class hear 'New-Half?' (In Japan, what they heard is a slang term for a man who has become a woman). All class members who heard had to pick themselves off the floor from laughing. Thankfully both the head teacher and the student I had unintentionally called a transsexual took the incident in fantastic humor; in my case I turned red-faced and repeatedly apologized.

Being an ALT is not limited to being in school although the title of being the 'assistant' takes a back seat in some situations. A friend of mine said of her fellow Japanese that "We have the heart of volunteering, but we do not always know how to take action." There is always a system that ought to be followed and a chain of command to respect. But the heart is there if someone takes the lead and there will be a reaction as well.

The greatest example of this thinking has come from 'inheriting' a volunteer project from a previous ALT. In my city, there is a special home for children of various backgrounds and family situations where children can stay and attend public school. Some are from broken families and some have developmental problems. My school works with the boarding

home and has a special needs class with an average of six students.

A few years ago, an ALT from Canada and a mutual Japanese friend began organizing visits to the home. They set up seasonal activities and established a connection with the home to give the children a chance to internationalize. A number of the ALTs who volunteered participated in Halloween, Christmas and summer water events. The children developed favorite 'gaijin'.

I've noticed over time that the students who come from the boarding home are trying harder to retain their English lessons and are more relaxed in class even if they don't particularly like the subject. They have a real, tangible situation in which to use English, not simply a 'maybe someday...' concept. Telling youngsters that they are learning something for their own good is very different from giving them an actual experience. From my first year in Japan until this year, in which I will begin my fifth, I've seen a fascinating change of attitude toward me and the visiting ALTs at the boarding home and toward the subject of English overall.

One of my favorite special needs students was a boy who had an attention problem. His mind and focus went in five directions all the time. However, it didn't detract from how he



## Jason Shon

with my students, something they really seem to appreciate. Many students said they liked that their ALT, “hangs out with us during breaks,” “participates in club activities and school activities,” “is easy to be friendly with and talk to,” and makes “school become lively.”

Spending time with students outside of class is also important because it leads to international exchange. When my students and I chat during breaks, for instance, we get to know each other on a more personal level. Students come to recognize the unique role I play in school and think of me not only as an English teacher, but also as a role model, friend, foreigner, or a “teacher like a friend who is easy to talk to.” We talk about everything from our favorite kind of music to differences between schools in Japan and Hawaii. Through these conversations, students point out, “We can learn about foreign countries, cultures, people, words, games, and lifestyles.” To encourage greater international understanding, I also maintain an English bulletin board at school where I post information and pictures about cultural events in Hawaii and America. I have also started a pen-pal program with junior high school

students in Hawaii. ALTs who actively participate in school life develop meaningful relationships with their students and give them the opportunity to practice their English in an unscripted and informal environment as well as participate in international exchange.

Of course, the impact of the JET Program stretches beyond schools to the community. I play soccer and badminton with community members, participate in cultural festivals and events, and run in marathons sponsored by local towns. When school is out of session I sometimes work on an organic farm through an organization called World Wide Opportunities on Organic Farms (WWOOF). I have even presented on the “Differences Between the Japanese and American Education Systems” to the local Rotary Club. My circle of friends includes many different kinds of people, from fishermen to doctors to musicians to public servants. I bring an international perspective, but I am also like a student, constantly learning more about Japanese society, culture, and language. What I learn here I will take home with me to Hawaii to share, and the cycle of giving and receiving will continue.

英語

## Helen Auer

lived life - I almost never saw him without a huge smile, or an intense look of concentration (for however long he could focus). He lived at the boarding home during the school year.

When English became his topic of the moment, he was quite good at it. But then he'd use it to ask questions out of the blue while I tried to maintain control and focus of the 5 other students (all with different developmental problems). He and I shared a ‘heart sense’ that seemed to bemuse every teacher in the office who would happen to hear one of our almost daily conversations. Even though his subjects would range from the weather and TV shows to the school lunch menu, we were always on the same page. By the time he graduated, I was telling my friends and family at home that he was my little brother at school.

I can't help but wonder how much greater my information exchange could be if I knew more Japanese. Nonetheless, I have been determined not to let my inability in Japanese hamper my experience or my own cultural exchange with those around me. And with the help of Japanese teachers, friends and from students themselves, they and I together have managed to turn a dull topic of language into something real and active. Isn't that one of the primary reasons ALTs are in Japan?

However, I am sorry to say that the language barrier is

breached primarily one way. Before moving to Japan, my grasp of Japanese was only a small collection of basic greeting phrases and a handful of numbers. Most communication among students, teachers and me are heavy on English and light on Japanese. Yet, I seem to have developed a knack at being ‘intuitive’ when someone is speaking to me in Japanese. Other teachers have said that I have ‘heart sense’ and that they are comfortable with approaching me, even if they only use Japanese. But they are always so patient with me and it is only reasonable that I return their kindness.

To me Japan has been an amazing experience. The reality of how much of an impact on those around me and the influence on me working as an ALT didn't happen the day I arrived, or even after a year. This year - the final year, I've found a new purpose. My life plans never included being a teacher before now. I've watched ‘good’ teachers and ‘mediocre’ teachers and learned from them. Being in Japan, I've found myself in a position of being not quite a teacher and not quite a friend. With my students I am somewhere in the middle and with the ‘heart’ of both. And I like that.

英語